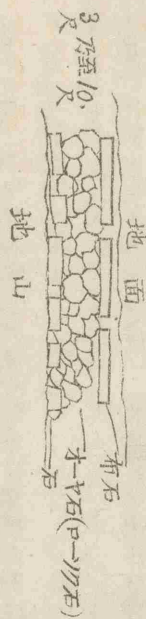


は百分の一五十分の一或は方眼紙を用ふるも可なり。
(ロ)地形、天井、建具及屋根葺材料

世人往々砂上の樓閣と稱して砂上の建物を批難すれ共
粘土の上にあるものよりもはるかに良し家を建てんと
するものは宜しく其地面が果して家を支ふるに足るや
否やを検査せざるべからず。

山の手あたりに於ては赤き土の出づるまで掘りて石片
を入れ其上をタコツキにてつく(これよりもヨウイト
マイタにてつく方よし)其上に大なる石を置き尙其上
に砂利を入れて充分つき其上に土臺石を並ぶ以上述べ
たるところが地形を作る最下等の程度なり。これまで
に手をつくさざれば家は出来上らずして破壊すべし



布石を置く事は重力を一點に受けざる點に於て効あり
間地(石垣を築くに用ふる石)を入れる事あれども余
程丁寧なる仕方なり。材を用ふる事あれども注意を要
す。水のあるところたとへば下町に於て用ひて利ある

も山の手に於て使用すれば年幾ばくならずして腐敗す
るの患あり。下町及江戸川あたりに松の材を使用すれ
ば永年くさる事なし

天井、

西洋風の天井は自由自在になし得、和風には桿打天井
格天井等あり格天井は品宜しけれども實用的にあらず
普通の天井は隙ありて風吹く時は塵鼠の糞等落つる恐
あり。日本人はこれらにつきて無頓着なれどもなるべ
く隙なきやう作らざるべからず。之には

1、良き材木を使用する事

2、イナゴを入るゝ事 このイナゴに附イナゴ本イナ
ゴの二種あり

3、竹篋の如きものを間に入るゝ事

食堂臺所等の天井を漆喰になすは良し紙を帖る事あれ
ども鼠の小便、雨漏等ある時はしみを出す。

建具

建具の寸法は一定せるものにして一般に五尺七寸なり
大なるものとしては七尺のものもあり特別なものに
なれば七尺五寸のものあり。上ノ下、中、下ノ上迄の
範圍に於ては五尺七寸なり、西洋式の硝子窓等につき
ても各寸法あり故に物すきにて勝手に作るは愚の至り

すれば瓦を押して第一となす。

日本の瓦は水を含むと一貫目に達す、安價にて輕きも
のに、アスベストに似たる紙にて作りたるもの出來た
り。しかれども熱に堪へざるの不便あり。故にアスベ
ストを用ひたり、近時大和瓦なるものを産す、使用し
て可なるものなり。スレートも宜し然れども屋根を修
繕する時足場を作るに不便なり。

建物につき一般の注意

實驗の結果によれば天井の屋根の下に熱の抜け道なく
夏は甚だ暑し故に適宜に窓を設け季節に應じて開閉す
べし。

美術に對する理解と尊重

坂井犀水先生の御話題は少しく漠然たれども此の美術
の社會に對する位置を考ふるに人としても女としても
また家庭の主婦として母としても教育家としても美術
を尊重す可き理由を知り正當なる理解を持つことが大
切なり此題を選びたる理由なり美術は日本に於てとか
く輕せられ易い日本は世界的美術國であると謂はれて
居る我々もそれを誇りとして居る然るに日本に於ける

なり障子は二こまが九寸にして障子紙はこれに合せら
れたり。故に小範圍なればともかく大範圍にわたりて
形狀大小を異にせるものを作るは不經濟なり。洋風に
ては尙更なり、硝子には一定の寸法ありて大小にかゝ
はらず各箱同値段なり(一箱、百〇三枚、九十枚、七
十五枚、七十枚等の種類ありて數の少ない箱のは其枚
が大なるものなり)硝子は市場にあるものその儘用ふ
べし、しからざる時は修繕の折に困難を來すべし、窓
の計畫をなすものは外見にも實用にも仕事にも各方面
に意を注ぐべきなり。

屋根葺材料

屋根には草葺板葺瓦葺等あり、以上の外亜鉛引、鐵板
等をも使用せるところあり。瓦葺最も良しく檜皮葺草
葺等は品良く板葺は安價にして氣持惡し亞鉛引は格好
惡し。

神社は主として檜皮葺、草葺を用ひ田舎に於ては草葺
多し家の都合よりいへば草葺最も良し、地震の際に瓦
にて打たるゝ憂もなければ又講堂の如く中に支柱を設
くる事能はざる家屋に於ては輕き(草葺の如き)屋根を
欲す、近來講堂に亞鉛引を多く使用するに至りたるも
輕きのみにて夏は暑く冬は寒し故に、各方面より考察

實際社會にては美術は餘り尊重されて居ない。圖書教育も然りである美術が如何に輕視されて居るかは今來掛けに通行して來たあの馬場先門の石垣でもわかる今少しく東京市民に美術が重んぜられて居たならばあの様に見苦しくはして置かねであらう畏れ多くも宮城の前にあのやうなみすばらしいものを置くとは何と心ない市民であらふあそこを通る度毎に深く感じ寒心に堪へぬ次第である。昔徳川の代に於てすらあそこはもと／＼威嚴のある立派な見附であつた況んや今日は畏くも宮城正面御門前なるに於てをやであるあの石垣を正すのにもさ程の事もないのである只あの角にも少し大きな石を用ひて威嚴のある形に積んだならば實に美しく立派になるのであるあれを外人等が見たらば如何なる感を起すであらうか。ラスキン曰く「其國に行きて其國の建築物を見れば其國民が如何に高尚であるか高尚でないかを知り得と。

又曾て來遊した一外人の曰く「日本の貴婦人と賤業婦との區別がつかぬ」とこれも美術の理解が如何であるかを現はすに足るものであるもし貴婦人の間に此理解があつたならば色や形等皆自ら其趣味が現はれて自ら高尚なる貴婦人と卑穢なる賤業婦との區別がつく筈で

見出し得ないものは其人の心に缺くる所あり」と。之人間の美的要求を反面より云ひ現はした者である此要求を満たすものは美術である

第二贅澤品と見らるゝこと。第一の理由の如く實用に縁遠しとの感あればこれを餘計なものと見輕んずるは當然であるが美術は必ず贅澤ではない贅澤は俗惡趣味を表はすとへ單純質素なものでも美の要素がなければ駄目である。かの光琳が或婦人より宴會に行く衣裳に就て意匠を頼まれた時に其婦人には黒紋附を着せ附随つて行く女には派手やかな美しいものを着せてやつたが他の人達は競つて派手やかにしていたので少しも引き立たなかつたが華美の中に其婦人一人が一際目立つて高雅に見えたと云ふ之は有名な話である。華美贅澤が美術ではない要は美術の根本義を掴む事である簡にして要を得ることである其趣味の洗練のために美術は必要である

第三美術と骨董とを混同する事。骨董とは古道具で不用な役にたつぬものゝことで只古いと變つて居ると云ふ點で賞せられるものであるかゝるものと美術と混合されては大いに困る骨董などは美の要素をどうと云ふ事なしに只古いと變つたと云ふことさへあればそれで

ある。我國でかく美術が輕ぜらるゝ理由を考ふるに第一實用に遠いと思はれて居ること。成程美術は直ぐ實際に役に立たぬ實用に縁が遠い。科學工業等は直ちに實利實用を聯想するが美術は迂遠で無用のものと見られる。されど實は日常の生活と密接の關係がある美術の根底は色である色は光である我々は常に光と色と形との世界に生活して居る光の度色の調子は直接に吾人の心を支配する精神上非常に影響せられる。例へば暗い色は吾人の心を沈鬱にし明るい色は活潑にする光と色と形との人心に及ぼす作用は輕々に看過すべからざるものでこれを吾人の日常生活に於て適當に調和按排するか否か選擇の良否趣味の高低は美術的素養の深淺である。色のみならず形も亦然り吾人は形のない世界を想像することが出來ぬ。生れてから死ぬまでこれがつきまとつて居る其線の總合即形と云ふものに支配を受けぬ譯には行かぬ而して此の色や形によつて心地よくも惡しくも生活なし得るのである心地よく愉快に生活するには食物住宅より諸器具にいたるまでも色と形との適當な調節によらなければならぬ此選擇をするは美術心である。誰れでも心に缺陷のない限り美を要求する者であるミレー曰く「如何なる自然からも美を

よいのである。美術には別に高尚なる使命がある第四娛樂である故に卑しむこと。樂しみを賤しいものと考へたのは古い思想である人生は實利一邊で成立つものでない賤しい娛樂こそ惡しけれ高尚な享樂にいたりては人間の身心を快暢にし精力を新鮮にし元氣を起させこそすれ惡いことは少しもない社會の繁劇を加ふると共に活動の多きを加ふると共に益々心機を一轉し氣力を養ふ必要がある消耗せられた精力を補充し蓄積するには娛樂が最も必要である此の點に於て美術は大に大切であるもし高尚なるものが味へなければ勢い低級な娛樂に入るものである例へば歐米に於ては立派な美術館を建て美術家が美術を研究するに便じ又國民の美術心を養ふを目的として居るがつまり高尚な趣味を養ふを目的として居るのである故に美術は單に下級の娛樂を防ぎ高尚の趣味に入らしむる一點のみにても大いに價があるのである故に眞の美術は他に目的はあれども一の娛樂としても高尚な眞によきものであつて精神に慰安を與へて元氣を起さすものである。以上は消極的に美術を輕するの誤を説いた今更に積極的に美術の必要を説かん畢竟輕侮は眞の理解なきために起るからである

一、常識として美術趣味を持つことは必要である 手近な例を云へば文展に行つて見てもその繪畫彫刻等について何等の理解もなく之に就て人と話し合ふこともできぬ様なことは多少教養ある國民として耻辱である又他家を訪問した様な場合にも床の間の裝飾の掛物や其他調度等について多少品評して適當に批評するといふことは社交上必要なことである之常識として美術的素養を持つて居ることの必要な譯である。

二、家庭に於ける美術の必要 他家を訪問した時に若し其家人に宗教心ある時は自然に其家人の人品に影響を及ぼして何となく奥床しい感じのせらるゝものである之と同様に美術趣味を持つて居る家を訪問する時は自然と其家人の人品を知り又何となく和らぎ安らかな感じがある人を無味乾燥でなく諧調あり和樂あり溫雅濕潤を覺えさせる様にするものである私は或時歐洲から歸朝した某畫家を訪問したことがある待つて居る間に其床の間を見ると低級な横濱物と稱せらるゝ畫幅がかつてゐた私は意外な感じがした遙に世界の美術の都たるパリにまで行つて研究をして歸つて來た人がかゝる下等の趣味を持つて居るのであるかと思つた横濱畫とは元西洋人に賣りつけた下品な畫であるとして

本人に會ふことを待つて居たやがて某氏は出て來た先づ第一に發した言葉は「私は今から何某さん（或金持ち）の所に肖像を畫きに行かうとして居る所である」と云つた之を聞いて私は大いに感じた實に床の間の畫幅は如何にもよくその人品を表はして居た事を。私はかゝる人の話をきく必要はないとそれを幸に歸つたそして再びその家の土をふまなかつた裝飾と人品の關係の大なることは之で知られる之を譬ふれば美術館は恰も國家の床の間の如きものである我國に美術館の設備のないのは常に外國の來遊者を失望させて居るのみでなく我日本國民の品格を輕蔑せしめることになつて居る美術を尊重しない國民として侮られても仕方がない三、個人の修養上必要であること。美術は身心訓練上にも必要である美術の手段である手指を運用すると云ふことは只手を動かして居るのみではなく腦との關係が大である故に畫を畫くと云ふことは只手の練習のみでなく心の訓練の上に必要なることである人が自然を觀察する場合に於ても美術心のあるなしによつて大いに違ふものである美術の素養ある人は同じ場所にて同じ目を以て同じ生活をして居てもそこに美を見出して楽しむことが出来るその理由は美術の素養のある人の

目は形に於ては同じ目であるけれども見る眼の働きは大きい違ふものである普通の人の目は一色にしか見えない所でも美術心のある人の目はそこに九十も百もの色を見る事ができるのである同じ光の中に生活をしてゐても美術の素養をもつかもたぬかによつて非常な違ひを起すものである即ち自然に對する觀察を敏活にし物に對する注意を精緻にし形や色に對して視覺の正しい訓練を得常人の視得ない深みを味ひ得せしめる故に美術に親しむ前の自然と美術に親しんで後の自然とは大に違ふあの新緑の森を見て普通の人は只漠然と緑の一色をしが感ぜぬ場合にでも美術の素養ある人はそこに緑の色や調子の幾種かの變化を見出して美を感じる普通の人の感ぜぬ所の美を感じる私はいつか山本森之助氏が文展に出した曲浦の畫を見たそれは夕やけが海面に反映して一帯紅の勝つた橙色で天地間紅でみなぎつた様になつてゐた人々はこの畫に對して不自然だと言つて色々批評をしたけれど私は曾てかゝる一色一調子に色どられた海邊の夕やけを見たことがあるので辯護して置いた其後私が或地方の海岸で堤防の邊りに立つてゐた時丁度夕やけで山本君の繪にそっくりな景色を見たその近所の人々は毎日此様な美しい景色を見て

居るから少しもそこに美を見出して居ないことを大いに感じた一つの美術趣味を持つことは一つの新しい人生の領土を拓いて一つの王國をよけいに増すと同じである美術趣味を持つことは畢竟人生の享樂を更に多くする事なのである

茲に美術研究の上で注意したいことは美術はよい方面のみではない之を學び之に親しむに偏頗になつて反つて害をなすことがある美術は一つの流派或は一つの主義にかたより易いものである又單に職業的に考へることがある此點は注意を要する宜しく研究するならば根本的に研究せなければならぬ本年修學旅行から歸つた美術學校の某教授の話によれば旅行先々其案内をして呉れる鑑識家が本年の生徒は從來の生徒と異つて着眼點があつてよいといつて賞めて居た此はめられた生徒は洋畫科の生徒で從來の生徒と云ふのは日本畫科の生徒であるこれを考へて見るに西洋畫は根本的に美そのものを見る故に彫刻に對しては工藝品に對しては美にかなつてよい所はよいと見る之に反し日本畫科の生徒は一つの型にあてはまる弊があるその自分の流派以外のものには冷淡でとかく職業的である自分の職業以外のものには理解がない隨つて趣味を感じない

之に原因したものだと思ふ偏頗にならぬ様に美そのものを根本的に研究することが必要である曾て橋本雅邦先生の許に某畫家が學びに行つたその畫家は美の根本を求めずして筆の運び方色の出し方等の枝葉の技巧につきてのみ模倣したそれで橋本先生はこの者は書を習ひに來たのではなく書を盗みに來たのであると評されたとかく日本畫家は排外的で外國のものをきらう弊がある我々は世界に對して誇るべき日本刀をもつて居る然し今日の實際の戰爭にこれのみを用ふるは不可能である又文明の武器を採用せずして日本刀のみを使用して行かなければ日本魂がなくなると思ふのは間違ひである何も日本刀を用ひぬからと云つて愛國心がなくなるわけのものでもない之と同様に日本畫に於てもそうである我國は世界に誇る可き空海、惠心、信實、定朝、運慶、雪舟、光悅、大雅等其他多くの偉大なる美術家を有し幾多の名品傑作を遺されて居る之は我々の愛國的誇りを高めるものである然し其遺された型を墨守するのが必しも愛國的と云ふものではない此點を明かに區別して戴きたい其畫が残して居る形式のみを踏襲し満足する事なく外に理想的のものあれば之を採用する丈の寛大な心をもつことは必要である日本畫といふ形

式にとらはれなくては愛國心がなくなるといふのは間違ひである毛筆は日本畫に於て唯一の道具となつてゐる然し之とても元は支那から輸入し我々の祖先は之を採用して立派な畫をかいて來たのである故に西洋の新技法を採用しても日本畫の妙味は十分に發揮し得られないといふはづはないかゝる間違つた考へを起すことなく長は之を探り短は之を捨て美は之を探り惡は之をすて世界的進取的の見地に立つて偏頗になる事なく日本畫を益發達さす事は大いに必要なる事である我國の美術の優秀なる點を尊重すると同時に世界の進歩したる大勢に適應したる常識を失はない様に心掛けねばならぬ

又美術を愛翫する上に種々な階級がある製作する態度の上から見ると職業のため即パンのためにするもの又は名譽を賣るためにして居るものもある然し眞の美術家は眞に美を愛する心より其精神的欲求よりするのでなくてはならぬ

鑑賞する人の側より見ても種々の階級がある社交の上より之を愛するもの 珍らしいものを集めて之を自慢せんがために愛するもの 己が襲藏の富を誇らんがためにするものがある然し眞の鑑賞は精神的の

教化若くば慰安を得んがために心より之を鑑賞するものであらねばならぬキリストの言に「それ棄るものは與へられ我ために其命を棄るものは生く可し」と眞に命を得んとすれば命を捨てねばならぬと同じく美術の眞の味を味はんとすれば功利の念を離脱しなければならぬ眞に無我無心になつて藝術を鑑賞する時に初めて其妙味を會得しそしてそれが精神上の滋養となるのである美術の功德は其人の精神を和げ靜かにし引き立てまた強くし盛にし高尚なものにすると云ふことである即ち之が美術の徳である而して眞に美術を愛する人がこれを味ふことができるのである

約言すれば目や耳の如き反應的に感ずるものに性を與ふるものは美術の効の低級なものである其人の心を慰安するものは其次位で人の精神を感動せしめ教化するものは最高のものである

美術と云ふものは單に形や色の美のみにあらず作者が己の魂^{ソウル}を作品にうちこんだものが眞の第一義の美術である眞の天才美術家が宇宙の眞美をつかまへてこれを己の作品に残して行くのである作者の人格をおしつけた作者の精神をおしこんだものが眞の美術品である科學上の偉大な人達が宇宙の理法を探して後世に之を

残すと共に美術家はこの宇宙より或神妙を見出してこれを後世に残すものである美術とは美の無盡藏である自然無限の警異に充ちたる神秘なる宇宙に對する具眼の天才の發見でありそれを人類に客らず喜びの音信である普通一般の人は此の宇宙神秘と驚異とに充ちて居るのに無關心でうかうかと過して居るが異常なる天稟のある美術家がよくそれを見極めて感動し贊嘆し之を絶叫する美術的作品はその新しい記録であるかゝる尊いものを見のがして感味することを得ずに一生を終ると云ふことは洵に惜しむ可きことである

此間開かれた芳崖先生の遺作展覽會に有名な悲母觀音の畫幅がでて居たその畫は一人の觀音様が雲の上に立つて慈眼を垂れて下の方に墜ちて行く子供を見送つて居るその手に持つて居る水瓶から水がしたゝり出てその下にその一滴の中で幼き子供が掌を合せて仰いで觀音様を拜して居る而して下の方にはけはしい山おそろしい谷が横はつて居る畫である之は人間が慈悲深い觀音様の手より離れて此の波風の烈しい世に下る様を芳崖先生の精神をこめて表したものである此作物は吾人をして思ひを遠く靈の世界に誘ふもので吾人に深い冥想に耽らしむるものである神秘なる宇宙と人生に對し

て無限の意義を感じしむるものである之を見た人は多いであらうが之に感じた人が何人あるであらうか斯る崇高森嚴なる意義を人生に味ひ得ないことは不幸の一ではあるまいか以上の如き高い意味に於ける美術といふものは普通教育と直接の關係のない様に思はれるが以上は美術の最高尙なる意義を述べて世俗の輕蔑に對して聊か抗議を申した次第である普通教育の上に於て取扱はれて居る美術はもつと程度の低いものであるのは勿論である自分は近頃二つの展覽會を見ておもしろい對照を見た一つは溜池に開かれた行樹社のもの一つは白木屋に開かれた珊瑚會のものである一つは日本畫を學んだ人が日本畫の繪の具を用ひて西洋畫を書いて居るのである一方は西洋畫家であつた人と日本畫家で西洋畫を研究した人が日本畫を書いて居るのである一方は日本畫を學んで居乍ら日本畫の畫法には満足が出来なくて西洋畫の描き法によつて西洋畫らしいものを書いて居るのであるこれは世が進むに従つて在來の日本畫では満足が出来ないと言ふことを示して居るのである此畫は西洋畫を研究した人の眼から見ると實に薄弱である在來の書方に満足が出来なければ何が故に謙遜して世界的に發達した西洋畫を根本的に學ばないか眞に

美を愛するならば何故眞理の前に額つかないかと思ふ一方の珊瑚會の方でその人々の美術心は單に外見の形といふものを寫すだけでは満足が出来ない己れの精神己の主觀を表さうと云ふ傾向である此方が寧ろ美術的には効果があつた併し純美術家としては之はよいけれども普通教育の上では主觀の表現等云ふそんな高尙なことを求める必要はあるまい先づ正確は光や影や形色といふものを見て之を描き表すことが必要である普通教育では兒童が自然を見た時正確に見正直に之を描き表す様にすることが必要であらうと思はれる然るに舊い或る流派の手法や型式の中へ嵌め込むことは斷じて宜しくない自分の眼を欺いて他人のやつた古い型の跡を撫でさせるのは心にもない癖を付てしもふことは宜しくない兒童には自分を詐らぬ様に自分の見たまま感じたまゝを正直に描き表はすことを教へねばならぬそこに美術の萌芽があるその尊い萌芽にねぢけ曲つた癖を付けずに素直に伸長せしめるのが眞の教育であらねばならぬ或は四條派とか狩野派とかと云ふ在來の日本畫の手法を以て強て其型の中に入れ舊き習慣に囚はれる様に干渉するのは折角芽ぐんだ美術の萌芽を害なうことゝなるそれ故に拘束ない根本的原理を教へて其

の美術的の萌芽を開發し誘掖して之を養成することが肝要であるそれには進歩的な世界的な自由な方法を普通教育に採用して正しき視覺を養ひ形や色に對して正當な感覺を養ふことが必要であると思ふ之は我國民の美術心の消長に大なる關係のあることと思ふ故に御注意あらんことを希望する次第である

黑板畫ニツイテ

大正六年五月十九日 藤先生オ話

教壇ニ立ツテ色々事ヲ教ヘヤウトスル時ニ言葉ヲ説明シタリ文章ヲ記述スル方法ガアルケレドモソレヨリモモット簡單ニ明瞭ニ理解シ易イノガ黑板畫デ生徒ニ了解サセル方便デアル

普通ノ人ノ書ク畫ハ紙ニ鉛筆又ハ毛筆ヲ書クノデアアルガ黑板畫ハ黑板ニちようくデカキ普通ノ畫ハ平面デアアルガ黑板畫ハ立面デアアル唯材料ガ違フノミデ別ニ方式ノアルモノデナイ

字義ニツイテ

凡ベテ色ハ其ノ種類ニヨツテソレソレ異ツタ感じヲ與ヘルモノデアアル黒ハ幽鬱デ心配ノ色デアアル西洋デハ死

罪、悲哀等ト云フ不吉ナ色トシテキル我國デモ人ノ死ニハ黒ヲ用ヒル黒ノ水引墨染ノ衣等ハコレデ角力ノ時デモ負ケタ時ニハ黒ヲ用ヒルトモカクヨロシクナイ色デアアル然シアル場合ニハヨイ意味ニ使ハレル例ヘバ黒人素人ノ場合ノ如キハコレデアアル一體黒ハ嚴格デ集中ノ強い色デアアル兒童ハ黒ニ對シテ快感ハモタヌ然シ眼ニハ無害ナ色デアアル然ルニ白筆ヲ以テ之レニ書クハドウイフ譯カト云フニ非常ニヨク引立ツテ見ユルカラデアアル久留米緋ニヨツテモ其ノハツキリサガワカル黒ノ服ニ白ノカラー調子ノヨイ感じヲ與ヘルモノデアアル色ノ白イハ七難カクス髪ガ黒ケリヤ十四難カクスト云ツテモヨイデアアラウ畫ト云フハモト畫ノ字デアアル其ノ起リハ井田ノ法ニヨルト云フ凡ソ私共ガ筆ヲ取ツテ書クモノハ字ト繪トデアアル字デナイモノノ形ハ畫デアアル

黑板ノ色

上述ノヤウニ黑板ハ兒童ニ氣持チヨクナイ色デアアルト云フ所カラ色々ナモノガ案出セラレテキル淡綠淡赤灰色其他種々ノ色ガ試ミラレテキル白板ニ色ちようくヲ用フト兒童ノ紙ト一致シテヨイ稱ヘル人モアル教師トシテ黑板畫ノ必要ナル理由